

東濃地区5市において第一子乳幼児（3,4ヵ月 または1歳6ヵ月児）を育てる母親の育児不安と 育児ソーシャル・サポートに関する調査

Investigation about Social Support/Parental Anxiety who Child-Rearing the First Child Infants (3,4-Month Child or 1 Years 6-Month Child) in TONO Five Cities Area

谷口美智子・小倉由紀子・高田理衣

Michiko Taniguchi, Yukiko Ogura and Rie Takada

要 旨

東濃地区5市において、第一子乳幼児（3,4ヵ月または1歳6ヵ月児）を育てる母親が、自分なりの育児方法を模索し母親役割に適応していく過程で、育児不安や育児ソーシャル・サポートの現状を明らかにすることを目的とした。方法は手島と原口（2003）の調査を参考に調査用紙を作成し、岐阜県東濃地区5市（多治見市、中津川市、土岐市、恵那市、瑞浪市）保健センターに乳幼児健康診査（以下、健診とする）に訪れた第一子育児中の母親を対象に調査を実施、結果を集計し評価した。その結果、子どもの月齢と育児不安に有意差は認められなかったが、育児ソーシャル・サポートに関しては有意差が認められた。（ $p<.05$ ）

子どもの月齢に関わらず育児不安はあり、子どもの月齢が高い方が、同世代の子ども家族との交流の機会をより強く希望していた。それらの分析から、東濃地区における育児不安に必要な支援は、地域における子育てネットワークの充実、母親同士の交流の機会や場を設ける必要性、夫のサポートの継続が重要であることが明確になった。

キーワード：3,4ヵ月児, 1歳6ヵ月児, 育児不安, 育児ソーシャル・サポート

I. はじめに

2013年厚生労働省「人口動態統計」, 「少子化対策関係資料」によると、合計特殊出生率は近年1.41付近の低水準にとどまり、出生率の低迷は今や社会的、経済的に立ち行かなくなるほどの日本の将来を脅かす状況にある。

少子化をもたらす原因として上野は、①初婚年齢の上昇、②育児・教育費の高騰、③住宅費の上昇、④女性の高学歴化、⑤女性の就

労の増加、⑥家族と子どもに対する意識の変化である（1998）と主張し、山田は、若い世代が出産に二の足を踏むのは子ども嫌いのせいではなく、むしろ子育てが要請する負担の大きさを予期するからである（1994）と主張している。

そのような中、厚生労働省の国民運動計画「健やか親子21」では、少子化が日本の社会に及ぼす影響を鑑み、経済的支援措置を含む

政策等、子ども・子育て支援の総合的な対策である、「子ども・子育てビジョン」が策定され、支援の強化を図ろうと計画された。その一つに「妊娠・出産・子育ての希望が実現される社会へ」と銘打ち、安心して育児することができるように「相談支援体制の整備」が掲げられているが、全国一律なものではなく、整備内容は各自治体の裁量に任せられ、都市部と地方による差、養育環境や育児サポート状況による差異が生じている現状がある。「都道府県行動計画」に位置づけられた「岐阜県少子化対策基本計画」（2013）（以下「基本計画」とする）の施策体系に関しては、安心して子どもを産み育てることができる岐阜県づくりとして、①ともに大事にする仕事と家庭、②子育てに優しい社会づくり、③地域で支える子育てがある。

しかし、さまざまな不安を抱えながら第一子乳幼児を育てている母親を受け止める基盤が不十分な現状の一つとして、病院やクリニックでの人手不足から、母親に対する支援や保健指導まで行き届かないということがある。また、専門の医療関係者が揃っているところでも待ち時間が長いため受診を躊躇する母親も少なからず存在し、電話相談を受け付けている機関でも専属の相談員を置かない限り母親への対応は難しく、母親の抱える不安に十分な対応ができないこと等、列挙に違がない状況である。それらが、母親の更なる不安の増幅因子になると推測する。

手島と原口は、「子どもの自我の発達に伴う自己主張の強まりが生み出す親子関係の葛藤から育児困難感や育児不安につながる可能性が大きい」（2003）と述べている。したがって乳児期と幼児期では育児ストレスや育児不安も異なることが予測されるため、市町村に

おいて、重要な各時期に乳幼児健診が実施されている。中でも3ヵ月、4ヵ月児健診は、乳児健診を初めて受診することから受診率は高いとされ、1歳6ヵ月児健診は母子関係にとって一つの危機的状況を含んだ自我の発達が著しい幼児への移行期での健診でもあり、これらの機会を活用し調査することとした。

II. 研究目的

3,4ヵ月または1歳6ヵ月児健診を受診する第一子乳幼児を育てている母親の育児不安、育児ソーシャル・サポートの現状を明らかにすることを目的とした。これにより東濃地区5市保健センターで実施される育児支援がさらに母親の子どもの発達に関する理解を助け、対処能力を高めるような支援に繋がりたい。

III. 用語の定義

1. 育児不安

櫻谷の定義する、「乳幼児を養育中の親が育児に疲れたり、子どもの発育や子育て全般にわたる心配事が絶えず、心理的緊張が増大した状態である」（2004）とする。

2. 育児ソーシャル・サポート

西海と松田は、「育児ソーシャル・サポートの定義は、情緒的サポートは実際面でのサポートで物品、金銭、時間の提供や環境による援助、情動的サポートは情報面での援助でアドバイス、示唆、支持、情報による援助、評価的サポートは同じような立場や経験を持つ人による援助で同じような人との比較、評価によって得られる援助である」（2008）とする。

IV. 研究方法

1. 研究対象

岐阜県東濃地区5市(恵那市, 瑞浪市, 中津川市, 多治見市, 土岐市)の保健センターで, 第一子乳幼児を育てている3, 4ヵ月児健診を受診する母親101名, 1歳6ヵ月児健診を受診する母親77名の計178名。

2. 調査期間

平成24年8月～平成24年9月

3. 研究デザイン

3, 4ヵ月または1歳6ヵ月児健診を受診する第一子乳幼児を育てている母親を対象に, 手島と原口(2003)によって開発された「育児不安尺度」, 「育児ソーシャル・サポート尺度」を用いた質問紙による調査研究である。

4. 調査内容

東濃地区5市保健センター長宛に当研究の目的・方法・内容を口頭および文書にて説明し依頼した。

データ収集方法に関して, 3, 4ヵ月または1歳6ヵ月児健診を受診する第一子乳幼児を育てている母親(調査対象者)に質問紙を配布し, 回答してもらうよう依頼した。

調査対象者は質問紙に記述後, 同封の封筒にて調査者に郵送することとした。

5. 分析方法

手島と原口によって開発された「育児不安尺度」, 「育児ソーシャル・サポート尺度」(2003)を用いる。それぞれ信頼性と因子的妥当性の尺度であることが示されている。育児不安に関しては22項目の質問項目ごとに4段階の尺度「全くあてはまらない」, 「少しあてはまる」, 「かなりあてはまる」, 「非常にあてはまる」, 育児ソーシャル・サポートに関しては18項目の質問項目ごとに4段階の尺度「全くあてはまらない」, 「少しあてはまる」,

「かなりあてはまる」, 「非常にあてはまる」のうちいずれかで回答を求め, 単純加算得点をもって尺度得点とした。調査表の逆転項目(※)に関しては点数を逆転して集計し総得点を出した。尺度に従い点数化し, 質問項目に対して単純集計後, 因子関連および3, 4ヵ月児と1歳6ヵ月児のSpearman相関分析を行った。そのうえで3, 4ヵ月児と1歳6ヵ月児を育てる母親の2群間の比較にはMann-Whitneyの検定を行った。有意水準は5%未満とした。統計的解析にはWindows版IBM SPSS StatisticsシステムVer19を用いた。

6. 質問紙の構成

1)フェイスシート(属性)

母親の年齢, 最終学歴, 現在の健康状態, 母親の職業, 夫の職業, 住居, 子どもの性別, 理想の子どもの数, 現在の子どもの数に満足か, 第2子の希望などについての質問紙。

2)育児不安, 育児ソーシャル・サポート等についての質問紙。

7. 調査地の概要

本調査地である多治見市, 中津川市, 土岐市, 恵那市, 瑞浪市の5市で構成される東濃地区は岐阜県の東部に位置し, 南は愛知県, 東は長野県と接している。丘陵地や, 中山間地域などからなっており, 森林資源が豊富で, 過去に大規模な地震の記録がない強固な地盤に恵まれた緑多い地域である。総面積は約16万haで県の面積の約15%を占め, 人口は約34万人と県全体の約17%を占めている。急速に工場立地が進みつつある地域で, 近年, 新興住宅も増えている。

また, 2012年総務省「国勢調査」, 岐阜県統計課「人口動態統計調査」(年報より)によると, 東濃地区各市の人口は多治見市

111,040人、中津川市79,340人、土岐市58,931人、恵那市52,100人、瑞浪市39,178人であり、人口密度はかなり高い。5市ともに核家族数が増加している。2011年及び2012年の年間出生数は、多治見市では872人から812人に減少、土岐市では447人から402人に減少し、中津川市では636人から662人に増加、恵那市では372人から403人に増加、瑞浪市では289人から301人に増加しているといった状況である。

8. 倫理的配慮

本調査の依頼と実施にあたって、東濃地区5市の保健センター長宛に当研究の目的・方法・内容を口頭および文書にて説明し依頼した。データ収集に関しては3,4ヵ月または1歳6ヵ月健診を受診する第一子乳幼児を育てている母親（調査対象者）に健診前に質問紙を配布し、無記名で郵送法にて回答してもらうよう依頼した。

調査対象者にはプライバシーの保護及び倫理的配慮については文書及び口頭で説明した。説明内容は、匿名性の確保・収集したデータの守秘・データ処理や連絡の目的以外には使用しないこと・承諾後の撤回が可能であること・非承諾の場合に不利益がないことであり、調査実施時に口頭での最終確認を行ったとともに、質問紙の返送をもって参加者の同意の意思を確認した。またすべての手続きは中京学院大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て行った。

V. 結果

1. 対象の背景

有効回答数は第一子3,4ヵ月児を育てる母親62名（有効回答率 61%）、1歳6ヵ月児を育てる母親64名（有効回答率 83%）、であり、全体の有効回答率は71%であった。

2. 単純集計結果

（1）母親の年齢

3,4ヵ月児では、24歳以下4名（6.5%）、25～29歳21名（33.9%）、30～34歳24名（38.7%）、35歳以上13名（21%）。

1歳6ヵ月児では、24歳以下6名（9.4%）、25～29歳25名（39.1%）、30～34歳17名（26.6%）、35歳以上16名（25%）。

（2）最終学歴

3,4ヵ月児では、中学校1名（1.6%）、高校25名（40.3%）、短大・高専・専門学校20名（32.3%）、大学16名（25.8%）。

1歳6ヵ月児では、中学校1名（1.6%）、高校18名（28.1%）、短大・高専・専門学校25名（39.1%）、大学20名（31.3%）。

（3）現在の健康状態

3,4ヵ月児では、非常に良い11名（17.7%）、大体よい24名（38.7%）、普通24名（38.7%）、あまり良くない3名（4.8%）。

1歳6ヵ月児では、非常に良い7名（10.9%）、大体よい28名（43.8%）、普通25名（39.1%）、あまり良くない4名（6.3%）。

（4）母親の職業

3,4ヵ月児では、専業主婦41名（66.1%）、フルタイム9名（14.5%）、パートタイム3名（4.8%）、育児休業中6名（9.7%）、その他3名（4.8%）。

1歳6ヵ月児では、専業主婦38名（59.4%）、フルタイム3名（4.7%）、パートタイム0名（0%）、育児休業中22名（34.4%）、その他1名（1.6%）。

（5）夫の職業

3,4ヵ月児では、会社員47名（75.8%）、公務員7名（11.3%）、非常勤0名（0%）、自営業6名（9.7%）、休職中1名（1.6%）、その他1名（1.6%）。

1歳6ヵ月児では、会社員52名(81.3%)、公務員5名(7.8%)、非常勤1名(1.6%)、自営業4名(6.3%)、休職中1名(1.6%)、その他1名(1.6%)。

(6) 住居について

3,4ヵ月児では、アパート24名(38.7%)、マンション4名(6.5%)、一戸建て34名(54.8%)。

1歳6ヵ月児では、アパート33名(51.6%)、マンション4名(6.3%)、一戸建て27名(42.2%)。

(7) 子どもの性別

3,4ヵ月児では、女兒34名(54.8%)、男児28名(45.2%)。

1歳6ヵ月児では、女兒38名(59.4%)、男児26名(40.6%)。

(8) 理想の子どもの数

3,4ヵ月児では、1人4名(6.5%)、2人39名(62.9%)、3人以上19名(30.6%)。

1歳6ヵ月児では、1人4名(6.3%)、2人40名(62.5%)、3人以上20名(31.3%)。

(9) 現在の子どもの数に満足しているか

3,4ヵ月児では、満足している11名(17.7%)、まあ満足している24名(38.7%)、やや不満である16名(25.8%)、不満である11名(17.7%)。

1歳6ヵ月児では、満足している21名(32.8%)、まあ満足している28名(43.8%)、やや不満である13名(20.3%)、不満である2名(3.1%)。

(10) 第2子の希望

3,4ヵ月児では、欲しい56名(90.3%)、まだわからない4名(6.5%)、欲しくない2名(3.2%)。

1歳6ヵ月児では、欲しい47名(73.4%)、まだわからない16名(25%)、欲しくない1名(1.6%)。

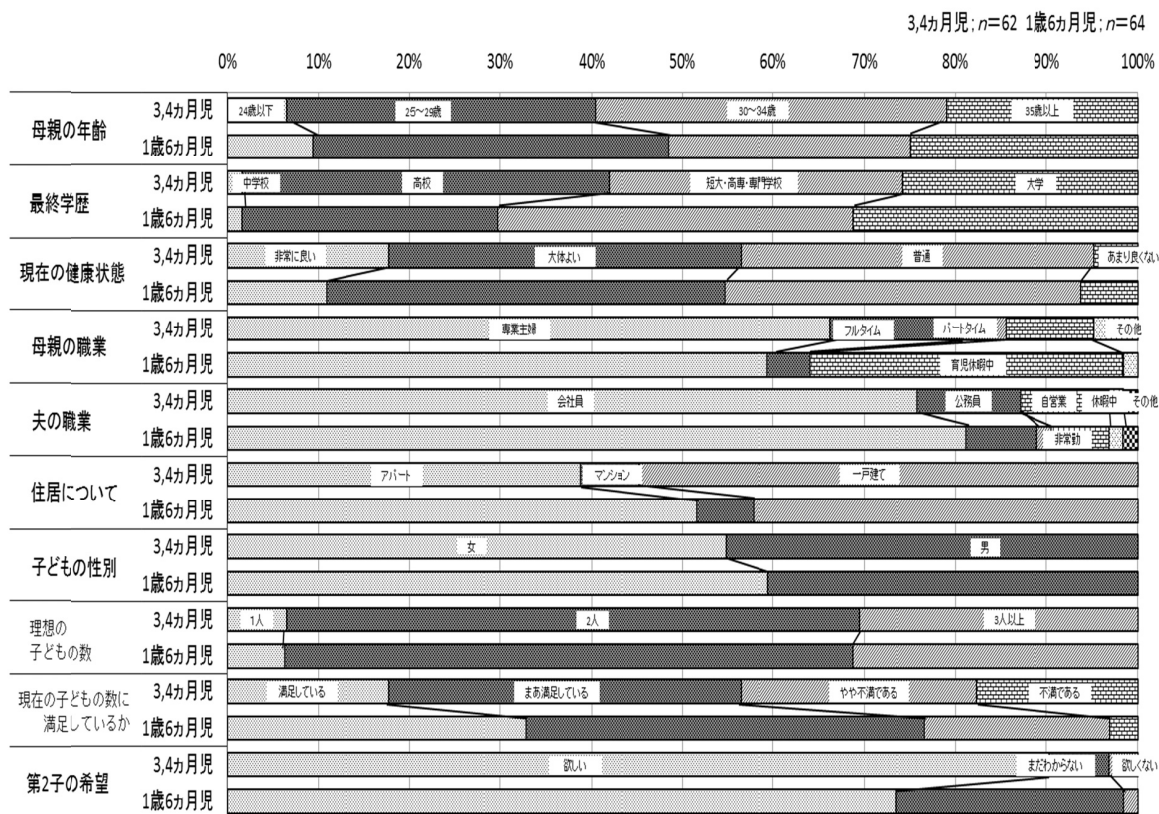


図1 フェイスシート (属性)

3. 相関分析結果

月齢別に育児不安、育児ソーシャル・サポートの平均値±標準偏差を記述する。

3,4ヵ月児を育てる母親の育児不安に関する項目全体では8.02±7.66, 育児ソーシャル・サポートに関する項目49.78±8.02であり, 1歳6ヵ月児を育てる母親の持つ育児不安に関する項目全体では40.82±10.04, 育児ソーシャル・サポートに関する項目53.37±8.62であった。

3,4ヵ月, 1歳6ヵ月児それぞれの相関(相関係数と有意確率)については質問項目ごとに検定したので記述する。

「現在の健康状態についてお聞きします」に関しては育児不安の相関0.277 ($p=.029$) がややあった。

「住居についてお聞きします」に関しては育児ソーシャル・サポートの相関0.327 ($p=.01$) がややあった。

「子どもの性別についてお聞きします」に関しては育児ソーシャル・サポートの相関0.277 ($p=.029$) がややあった。

「家族計画についてお聞きします。理想の子ども的人数は何人ですか」に関しては育児不安の相関-0.265 ($p=.037$) はほとんどなかった。

「現在の子ども的人数に満足していますか。」に関しては育児不安の相関-0.302 ($p=.017$) がほとんどなかった。

「第2子がほしいですか」に関しては育児不安の相関0.288 ($p=.023$) はややあった。

3,4ヵ月児を育てる母親においては育児不安と育児ソーシャル・サポートの関係において相関-0.471 ($p=.0$) を示しほとんどなかったといえる。

1歳6ヵ月児を育てる母親においては育児

不安と育児ソーシャル・サポートの関係において相関-0.432 ($p=.0$) を示しほとんどなかったといえる。

4. 独立2群間検定結果

1) 育児不安についての質問項目

3,4ヵ月児を育てる母親と, 1歳6ヵ月児を育てる母親の総得点では独立2群間検定で育児不安に関して有意差がなかった。

以下に質問項目ごとに有意差があったものについて検定結果を記述する。

「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」に対して有意差があった。 ($p=.009$).

「子どもと一緒にいると楽しい。」に対して有意差があった。 ($p=.031$)

「子どもをわずらわしいと思うことがある」に対して有意差があった。 ($p=.001$)

「よその子どもと比べて落ち込んだり自信を無くしたりすることがある」に対して有意差があった。 ($p=.012$)

2) 育児ソーシャル・サポートについての質問項目

3,4ヵ月児を育てる母親と, 1歳6ヵ月児を育てる母親の総得点では独立2群間検定で育児ソーシャル・サポートに関して有意差があった ($p<.05$).

以下に質問項目ごとに有意差があったものについて検定結果を記述する。

「同じ年くらいの子どものと遊ばせる機会がない」に対して有意差があった。 ($p=.000$)

「移動の手段が乏しく車がないと外出しにくい」に対して有意差があった。 ($p=.002$)

「同じ年くらいの子どものを持つ母親と話す機会がない」に対して有意差があった。 ($p=.004$)

「母乳育児や離乳食など子育てについて話

表1 育児不安

	3,4ヵ月 児の親 (n=62) Ave	1歳6ヵ月 児の親 (n=64) Ave	検定
育児についていろいろ心配なことがある	2.16	2.21	
母としての能力に自信がない	2.05	2.11	
子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	1.11	1.37	**
子どもと一緒にいるとき、心がなごむ ※	1.67	1.87	
自分の時間がない	2.42	2.55	
子どもの発育・発達が気にかかる	2.09	1.92	
何となく育児に自信が持てない	1.86	2.10	
子どもといっしょにいと楽しい ※	1.47	1.77	*
1人になれる時間がない	2.56	2.65	
こどもを育てることが負担に感じる	1.31	1.52	
子育てに失敗するのではないかと思うことがある	1.77	1.82	
子どもをわずらわしいと思うことがある	1.19	1.52	**
自分のペースが乱れる	2.06	2.06	
この先どう育てたらいいのかわからない	1.50	1.60	
よその子どもと比べて、落ち込んだり、自信をなくしたりすることがある	1.33	1.65	*
子どもを生まなければよかったと思う	1.03	1.10	
子どものために仕事や趣味を制約される	2.23	2.10	
育児意欲がない	1.08	1.24	
どうしつけたらよいか分らない	1.69	1.94	
子どもを憎らしいと思うことがある	1.09	1.15	
毎日同じことの繰り返しをしている	2.25	2.52	
家事を全てする時間がない	2.09	2.08	
Mann-Whitney検定	***p<.001	**p<.01	*p<.05

表2 育児ソーシャル・サポート

	3,4ヵ月 児の親 (n=62) Ave	1歳6ヵ月 児の親 (n=64) Ave	検定
私一人で子どもを育てている	1.50	1.35	
育児の仕方を相談できる人(例えば医師・保健師などの専門家)がいる	2.55	2.62	
短時間でも預かってくれる人が近くにいる	2.97	3.11	
その日の子どもの様子を夫婦で話し合うことができる	3.30	3.33	
子どもの心配事があるときに夫(妻)に相談できる	3.52	3.51	
同じ年くらいの子どもと遊ばせる機会がない ※	2.73	3.54	***
移動の手段が乏しく車がないと外出しにくい ※	1.88	2.62	**
子どもを預けたり預かったりする子育ての仲間が身近にいる	1.50	1.90	
夫は妻をよく理解してくれている	3.08	2.94	
同じ年くらいの子どもを持つ母親と話す機会がない ※	3.08	3.65	**
母乳育児や離乳食など、子育てについて話し合える人が身近にいる	2.83	3.37	*
夫は妻の代わりに育児や家事ができる	2.39	2.73	
同世代の子どもを持つ家族とのつきあいがいい ※	3.05	3.49	*
子育てをするなかで感じたことを安心して話すことができる人がいる	3.28	3.43	
歯医師や美容院に行きたいとき、預かってくれる人がいる	3.02	3.43	
子育てのことを継続的に話せる機会がない ※	3.20	3.71	*
子どもの心配事があるときに相談できる人がいる	3.36	3.54	
子どもと歩いて遊びに行く公園などが身近にある	2.56	2.97	
Mann-Whitney検定	***p<.001	**p<.01	*p<.05

し合える人が身近にいる」に対して有意差があった。 $(p=.012)$

「同世代の子どもを持つ家族とのつきあいが無い」に対して有意差があった。 $(p=.013)$

「子育てのことを継続的に話せる機会が無い」に対して有意差があった。 $(p=.018)$

VI. 考察

本調査において、育児不安を抱える母親への有効な支援を資するために第一子乳幼児を育てる母親を対象に、育児不安、育児ソーシャル・サポートの現状について調査し、分析検討した。

1. 東濃地区5市の育児不安の現状

子どもの月齢と育児不安に有意差は認められなかった。子どもの月齢に関わらず育児不安はさまざまな形で現れるということが明らかになった。先行研究のなかで本調査結果と同様、両角は、「子どもの年齢と育児不安との関連は見いだされなかった」（2000）と主張している。しかし、冬木によれば、「子どもの年齢と育児不安との関連が見いだされた」（2000）と主張しているように育児不安についての調査結果にはばらつきがあった。

東濃地区5市において3,4ヵ月児を育児する母親は、「子どもと一緒にいると楽しい」と認識していた。子どもの成長発達過程において顎がすわり、より人間らしくなり、あやすと笑い、嫌なときには泣き怒る等、感情が豊かになってくることや昼と夜の区別がつくようになり生活のリズムが整い出して母親が子どもの成長を感じたり、抱きやすく、外へも連れ出しやすくなるからではないかと考える。

しかし、1歳6ヵ月児を育児する母親は、「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」と強く認識している。このことは

子どもの成長発達過程で一人歩きをするようになり、運動量が増すのと比例して傷や怪我が増え、心配のあまり、強い口調や態度をとることがあるからとも受け取られる。香取と高橋は、「対児感情がうまく調整できず、微妙な刺激に感じやすく、些細なことで悲しくなり、喜びなどして、この感情を抑制することができない、このような不安定な感情状態は、育児に対する態度にも悪影響を及ぼす」（2005）と述べているように、子どもを虐待しているかもしれないかといった不安が常に潜在しているのではないかと考える。

さらに、「子どもをわずらわしいと思うことがある」については1歳6ヵ月児を育児する母親のほうが強い。この月齢になると子どもの知的好奇心が活発になり母親の思うようにならなくなるのが影響していると考えられる。三国（2003）は、「乳児期よりも1歳6ヵ月児に父母とも育児ストレスが増加し、より育児支援が必要である」と指摘し、今村・居崎・高田・徳広・今村は、「母親のリフレッシュが必要である。自分の時間は家族との時間と同じくらい必要である」（2009）と述べている。

また、1歳6ヵ月児を育児する母親は、「よその子どもと比べて落ち込んだり自信を無くしたりすることがある」と感じている。外部交流の機会も増え、同じ悩みを共有できる育児仲間は気軽に相談できる存在として、また気を紛らわす場の役割となることから育児不安に対するサポート効果を持つが、家庭外のサポートはすべての場合においてストレスを緩和するものではなく、逆に他の子どもと自分の子どもを比較してしまい不安や焦りが増幅されることもある（2000）と、住田と溝田が述べているように、この時期は子ども

の体格や言葉の発達に個人差が表れ、母親が比較しがちになることも考えられる。

それらを踏まえて岐阜県では、基本計画の中の、「地域で支える子育て」(2013)で、多様な子育てサービスの充実を目指しており、保護者のニーズが高い一時預かり等について、利用しやすくなるよう保育所の受け入れ体制の充実を支援している。平成24年度末の岐阜県における一時預かり施設設置(旧一時保育)状況は221ヵ所であり、平成26年度末の目標値192ヵ所をすでに達成している。保護者の就労形態の多様化に伴う保育ニーズの増大に対応するため、「ショッピングセンターでの一時預かり」や「子育てコミュニティセンターでの支援」等、更なる充実と拡大が重要である。

2. 東濃地区5市の育児ソーシャル・サポートの現状

子どもの月齢と育児ソーシャル・サポートに関しては有意差が認められた。 $(p < .05)$ 1歳6ヵ月児を育てる母親のほうが、同世代の子ども家族との交流の機会をより強く希望していた。

1歳6ヵ月児を育児する母親は、「同じ年くらいの子どもと遊ばせる機会がない」、「同じ年くらいの子どもを持つ母親と話す機会がない」、「同世代の子どもを持つ家族とのつきあいがなし」と認識している。林は、「友達との関わりを中心に見た母親のメンタルヘルスは3、4ヵ月児の場合はまだ余裕がない」(2010)と述べているように、3、4ヵ月児の母親は、家の中で育児に追われている状況であると推察するが、1歳6ヵ月児が家の中から外へと興味を持ち出す一方で、対人関係を苦手とする母親は、他者からの援助を受けることに躊躇したり、あるいは自ら拒んでしまうこともあり、母親の社交性、行動力に大

きく影響されているのではないかと考える。大日向は、「従来、女性は誰でもよき母性を発揮できるという考えのもと、母親たちは育児による心身の疲労や自由の束縛の中で育児の大半を一人で担うのが当たり前とする社会風土があった。しかし、母親であっても育児が完璧にできるわけではなく多くの支援が注がれてこそ子どもは健やかに育つという認識に変わってきた」(1996)と母親への支援の重要性を述べている。

そのような中、岐阜県の取り組みの一つとして、育児中の親の不安や孤立感を和らげ、児童虐待の予防にも効果があるといわれている親教育プログラム「ノーバディーズ・パーフェクト(完璧な親なんていない)」(2013)の普及を図るため親教育プログラムを開催する市町村に対し事業実施に必要な経費を補助しているが、補助実績は東濃地区5市では多治見市のみにとどまっている。この試みを今後、拡大していくことが重要である。

さらに、保健センターで実施される育児相談などの催しに参加しない母親や保健センターに来所しても周囲の母親と交わろうとしない、あるいは話ができない母親への支援をどのようにしたらよいのかも検討が必要である。

また地方においては子どもの絶対数が少なく子ども同士の交流の機会を意図的に設定しなければならない場合もあるということも挙げられる。1歳6ヵ月児を育児する母親は「移動の車がないと外出しにくい」と認識している。子どもの行動範囲の広がりと共に外出の機会が増えるものの、東濃地区の特徴として公共交通機関が発達していないことが要因の一つであると考えられる。外出しにくい状況は、母親のリフレッシュする機会が得にくいことにもつながり、対応策を検討する必要が

あると考える。

1歳6ヵ月児を育児する母親は、「母乳育児や離乳食など子育てについて話し合える人が身近にいる」と認識していた。このことは、東濃地区5市が地方であり、田中・板垣・古溝・鈴木・半澤は、「地域によっては家族成員が多いということもあり、育児ストレスも都市型の孤立している母親の育児ストレスが目立つわけではない、また外に相談相手を見つけなくても家族間で解決できる場合もある」（2008）と、地方であることの良さを挙げている。

また、「子育てのことを継続的に話せる機会がない」とも認識している。身近な存在として夫は育児に重要な役割を担っているといえ、夫の育児参加が母親の育児に対する肯定感を高める。しかし、子育て世代の男性の長時間労働などで実際的な夫のサポートが望みにくいことも昨今の問題であるが、東濃地区では、夫（妻）に相談できるという回答が半数以上を示していた。養育者にとって夫（妻）の存在は重要であり、今後も継続できるよう、育児遂行にあたってのサポート提供者として夫や実母、あるいは義父母などの家庭内サポートと友人や専門家などの家庭外サポートが有効に発揮できるよう継続的な支援が重要である。

VII. 結論

1. 子どもの月齢差に関らず育児不安がある。
育児不安のどのようなケースにも合うという有効な支援はなく、ケースバイケースであり、柔軟な対応が求められている。
2. 子どもの月齢が高い方が、育児ソーシャル・サポートを望んでいた。
3. 夫（妻）に相談できるという回答が半数

以上を示していた。養育者にとって夫（妻）の存在は、重要であり今後も継続できるよう、支援方法・内容の検討が必要である。

VIII. おわりに

本調査は、東濃地区5市保健センターへ乳幼児健診に訪れアンケート調査に協力した限られた母親の認識を調査したものであり、健診に訪れなかった母親、アンケートに同意しなかった母親の認識は反映されていない。

サンプル数も3,4ヵ月児を育てる母親62名、1歳6ヵ月児を育児する母親64名といったやや少なめな問題点もある。また無作為抽出でもなく、5市という限られた地域の為、母親の認識を代表するものではなく、この調査の限界といえる。

われわれ専門職者として、育児する母親や家族に適切な情報提供やソーシャル・サポートの提供、育児する母親同士が交流できる機会、場所の提供を行っていく必要があると強く思う。

謝辞

本論文をまとめるにあたり、快く調査にご協力くださいましたお母さま方と貴重な研究の機会をくださいました東濃地区5市保健センター関係各位に心より感謝申し上げます。本研究は、平成24年度中京学院大学看護学部共同研究費の助成を受けて行った研究の一部である。

なお、本研究の一部は第27回日本助産学会学術集会、第15回日本母性看護学会学術集会、第54回日本母性衛生学会学術集会で発表した。

【文献】

岐阜県(2013). 岐阜県少子化対策基本計画に

- 基づく平成24年度施策の実施状況報告. 1-24.
- 冬木春子(2000). 乳幼児を持つ母親の育児ストレスとその関連要因—母親の属性およびソーシャルサポートとの関連において—. 現代の社会病理. 15, 39-56.
- 林富公子(2010). 4ヶ月児を育児中の母親のソーシャル・サポートに関する考察. 園田学園女子大学論文集, 44, 213-221.
- 細川喜美子, 梁由香子, 志茂坂真由美(2001). 私たちが考える育児支援. ペリネイタルケア, 20(7), 14-17.
- 今村民子, 居崎時江, 高田全代, 徳広圭子, 今村光章(2009). 岐阜県東濃地区における子育て支援センターの現状と課題. 岐阜大学教育学部研究報告, 教育学研究, 11, 153-168.
- 香取洋子, 高橋真理(2005). 妊婦の不安が産褥早期の母子関係に及ぼす影響. 日本女性心身医学会雑誌, 10(3), 154-162.
- 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子, 加藤博仁, 恒次欽也, 中村恵美子(1995). 育児不安に関する臨床的研究: 幼時の母親を対象に. 日本総合愛育研究所紀要, 31, 27-42.
- 北村朋子(1996). 健康診査時における養育者の育児不安の相違. 母性看護, 27, 74-77.
- 北川ゆかり, 中村加奈重(2011). 若年母親の育児支援. 地域保健, 34-37.
- 三国久美(2002). 乳幼児を持つ親の育児ストレスに関する縦断研究. 平成11年度~平成14年度科学研究費補助金研究成果報告書, 43-51.
- 宮本政子, 船越和代, 中添和代, 時岡恵美, 森美代子, 渋谷幸彦(2000). 香川県立医療短期大学紀要, 2, 115-121.
- 中村雄一郎(1991). 不安とは何か 不安の変質と境界. 精神医学, 33(12), 126-127.
- 大日向雅美(1996). 母性から育児性へ. 現代のエスプリ, 342, 115-122.
- 両角伊都子, 角間陽子, 草野篤子(2000). 乳幼児を持つ母親の育児不安に関わる諸要因—子ども虐待をも視野に入れて—信州大学教育学紀要, 99, 87-98.
- 西海ひとみ, 松田宣子(2008). 第1子育児早期における母親の心理的ストレス反応に影響する育児ストレスと育児ソーシャル・サポートに関する研究. 神戸大学大学院保健学研究科紀要, 24, 51-64.
- 佐藤紀子(1996). 育児不安と子育て. 母子保健情報, 34, 27-33.
- 櫻谷真理子(2004). 今日の子育て不安・子育て支援を考える. 立命館人間科学研究, 7, 75-86.
- 住田正樹, 溝田めぐみ(2000). 母親の育児不安と育児サークル. 九州大学大学院教育学研究紀要, 46, 23-43.
- 高岡純子(2011). 家族の関わり. ベネッセ教育開発センター, 第2回妊娠出産子育て基本調査, 52-63.
- 田中克枝, 板垣ひろみ, 古溝陽子, 鈴木千衣, 半澤ハル子(2008). 福島県A市における1歳6ヵ月児を持つ母親の育児ストレス. 福島県立医科大学看護学部紀要, 10, 9-21.
- 手島聖子, 原口雅浩(2003). 乳幼児健康診査を通じた育児支援: 育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1, 15-27.
- 上野千鶴子(2000). 出生率低下: 誰の問題か 人口問題研究. 54, 41-62.
- 山田昌弘(1994). 近代家族の行方: 家族の愛情のパラドックス. 297, 新曜社, 東京.

フェイスシート（属性）

- 問1. あなたの年齢についてお聞きします。いずれか1つに○をつけてください。
1. ~24歳 2. 25~29歳 3. 30~34歳 4. 35歳~
- 問2. あなたの最終学歴（中退は含まない）についてお聞きします。いずれか1つに○をつけて
ください。
1. 中学 2. 高校 3. 短大、高専、専門学校 4. 大学 5. 大学院
- 問3. 現在、あなたの健康状態についてお聞きします。いずれか1つに○をつけてください。
1. 非常によい 2. 大体よい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. 非常によくない
- 問4. あなたの職業についてお聞きします。いずれか1つに○をつけてください。
1. 専業主婦 2. フルタイム 3. パートタイム 4. 育児休業中
5. その他（ ）
- 問5. ご主人の職業についてお聞きします。いずれか1つに○をつけてください。
1. 会社員 2. 公務員 3. 非常勤 4. 自営業 5. 求職中
6. その他（ ）
- 問6. 住居についてお聞きします。いずれか1つに○をつけてください。
アパート マンション 一戸建
- 問7. お子さまの性別についてお聞きします。いずれかに○をつけてください。
女 男
- 問8. 家族計画についてお聞きします。理想の子どもの数は何人ですか。いずれか1つに○をつ
てください。
1人 2人 3人以上
- 問9. 現在のお子さまの数に満足していますか。いずれか1つに○をつけてください。
1 満足している 2 まあ満足している 3 やや不満である 4 不満である
- 問10. 第2子についてお聞きします。現在のお気持ちに近いものいずれか1つに○をつけてくだ
さい。
ほしい まだわからない ほしくない
- 問11. その理由をさしつかえない範囲でお書きください。
（理由）
-

次のページへつづく

育児不安尺度

No.1

質問紙

あなたの子育てに対する感じ方についてお尋ねします。
下記の項目についてどの程度あてはまりますか。「全くあてはまらない(1)」から「非常にあてはまる(4)」までの4段階で評価して、あてはまる数字に○をつけてください。

	質問項目	全くあてはまらない	少しあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる
1	育児についていろいろ心配なことがある	1	2	3	4
2	母としての能力に自信がない	1	2	3	4
3	子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	1	2	3	4
4	子どもと一緒にいるとき、心がなごむ	1	2	3	4
5	自分の時間がない	1	2	3	4
6	子どもの発育・発達が気にかかる	1	2	3	4
7	何となく育児に自信が持てない	1	2	3	4
8	子どもといっしょにいると楽しい	1	2	3	4
9	1人になれる時間がない	1	2	3	4
10	子どもを育てることが負担に感じる	1	2	3	4
11	子育てに失敗するのではないかと思うことがある	1	2	3	4
12	子どもをわずらわしいと思うことがある	1	2	3	4
13	自分のペースが乱れる	1	2	3	4
14	この先どう育てたらいいのかわからない	1	2	3	4
15	よその子どもと比べて、落ち込んだり、自信をなくしたりすることがある	1	2	3	4
16	子どもを生まなければよかったと思う	1	2	3	4
17	子どものために仕事や趣味を制約される	1	2	3	4
18	育児意欲がない	1	2	3	4
19	どうしついたらよいか分からない	1	2	3	4
20	子どもを憎らしいと思うことがある	1	2	3	4
21	毎日同じことの繰り返しをしている	1	2	3	4
22	家事を全てする時間がない	1	2	3	4

育児ソーシャル・サポート尺度

No.2

質問紙

あなたの子育ての環境についてお尋ねします。
下記の項目についてどの程度あてはまりますか。「全くあてはまらない(1)」から「非常にあてはまる(4)」までの4段階で評価して、あてはまる数字に○をつけてください。

	質問項目	全くあてはまらない	少しあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる
1	私一人で子どもを育てている	1	2	3	4
2	育児の仕方を相談できる人(例えば医師・保健師などの専門家)がいる	1	2	3	4
3	短時間でも預かってくれる人が近くにいる	1	2	3	4
4	その日の子どもの様子を夫婦で話し合うことができる	1	2	3	4
5	子どもの心配事があるときに夫(妻)に相談できる	1	2	3	4
6	同じ年くらいの子ともと遊ばせる機会がない	1	2	3	4
7	移動の手段が乏しく車がないと外出しにくい	1	2	3	4
8	子どもを預けたり預かったりする子育ての仲間が身近にいる	1	2	3	4
9	夫は妻をよく理解してくれている	1	2	3	4
10	同じ年くらいの子ともをもつ母親と話す機会がない	1	2	3	4
11	母乳育児や離乳食など、子育てについて話し合える人が身近にいる	1	2	3	4
12	夫は妻の代わりに育児や家事ができる	1	2	3	4
13	同世代の子ともを持つ家族とのつきあいがいい	1	2	3	4
14	子育てをするなかで感じたことを安心して話すことができる人がいる	1	2	3	4
15	歯医者や美容院に行きたいとき、預かってくれる人がいる	1	2	3	4
16	子育てのことを継続的に話せる機会がない	1	2	3	4
17	子どもの心配事があるときに相談できる人がいる	1	2	3	4
18	子どもと歩いて遊びに行く公園などが身近にある	1	2	3	4

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。